



6年ぶりの興行に沸く

大相撲庄原場所・10/26

No.1

庄原市総合体育館で、秋巡業大相撲庄原場所が開催されました。会場には、実行委員会が招待した市内の小学生を含め約2,400人の観衆が集まり、迫力ある取組や相撲甚句、相撲の禁じ手を面白おかしく紹介する初切など、巡業ならではの力士とのふれあいを楽しみました。

取組では、横綱・日馬富士関をはじめとする約110人の力士が土俵上で押したり組んだり迫力ある相撲を取り、突っ張りなどの技が繰り出されると、会場はひときわ歓声で沸きました。結びの一番では、日馬富士関と鶴竜関の横綱同士が四つに組み合う貫禄ある取組に、大声援が飛び交いました。

また、口北小学校の全校児童40人が力士に挑むちびっこ相撲も行われ、児童は二人がかりでもびくともしない力士に、簡単に持ち上げられたり、投げられたりしながら力士のパワーに驚いていました。

観客は「以前見に行った地方巡業では見ることができなかったものが披露され、イベントの構成が面白かった」「握手会などで力士を間近で見て、大きさやオーラを感じることができた」「取組では子どもから高齢の方まで声援を送ったり、力士が手を振ってそれに応えたりと、地方巡業ならではのアットホームな雰囲気もあった」と話していました。



▲3横綱が庄原市総合体育館にそろい踏み



▲相撲の禁じ手を面白おかしく紹介する初切（しよっきり）



▲日馬富士関(左)と鶴竜関(右)の結びの一番



▲ちびっこ相撲で宙に舞う口北小学校児童



かしこい消費者になろう!

リーダー研修会 in 庄原「消費者問題研修会」・10/25 **No.4**

庄原市ふれあいセンターで、広島県・庄原市地域女性団体連絡協議会主催のリーダー研修会 in 庄原「消費者問題研修会」が開催され、71人が参加しました。

研修会では、最近の消費者トラブルの事例や医療・年金・介護の問題についての講演や劇が行われ、参加者は、「消費者は弱い立場に置かれていることを正しく知り、かしこく買物や契約をする」「どんな小さなことでも誰かに相談する」など、かしこい消費者になるコツを学びました。

参加者からは「人生まだまだ勉強があるのだと感じた。今日の話をも身につけていきたい」という声が聞かれました。



▲詐欺についてわかりやすく演じた「劇団あじさい」の皆さん

治水で安心・安全な生活を

庄原ダム竣工式・10/27 **No.3**

川西町上川西で、8月から運用開始している庄原ダムの竣工式が執り行われました。

庄原ダムは県が事業主体となり、洪水防止、水道水源の確保、農業用水の安定供給および河川の保全を目的とした多目的ダムとして、計画してから16年かけて西城川支川の大河川に建設されました。

竣工式には湯崎英彦知事や亀井静香衆議院議員、木山耕三市長をはじめ、県や国、市、地元の関係者約70人が参加しました。

秋空の下、テープカットやくす玉の開披、地元の高小学校児童による楽器演奏など記念行事も行われ、ダムの運用開始を祝いました。



▲テープカットで竣工を祝う

水道災害に備える

日本水道協会広島県支部の合同防災訓練・10/18・19 **No.6**

10月18日・19日の2日間、日本水道協会広島県支部が主催する第11回合同防災訓練が庄原市上野総合公園などを会場に開催されました。

この訓練は、県内で水道災害が発生した場合、県内の水道事業者相互が協力して災害初期の緊急対応を行うための訓練で、庄原市を震源としたマグニチュード7の地震が発生し、水道施設が被害を受けたことを想定して行われました。

県内の19市町から職員70人、給水車10台が応援隊として参集し、漏水する水道管を修復する応急復旧作業や、保育所や自治振興センターで応急給水活動などを行いました。



▲県内市町の職員が協力し水道管修復を訓練

火災のないまちを目指して

秋の防火パレード・11/9 **No.5**

庄原消防署と庄原幼稚園は、11月9日に市役所本庁舎前の市民ひろばで秋の防火パレードを実施しました。これは、11月9日から15日まで行われた「秋の全国火災予防運動」に合わせ、火災予防の意識をいっそう高め、火災の発生を防ぐことを目的に実施するものです。

当日はあいにくの雨模様で、パレードは中断となりましたが、園児による鼓笛演奏が行われ、元よく火災予防を呼びかけました。パレード終了後、庄原消防署は園児たちの協力に感謝し、紙芝居を贈呈しました。

空気が乾燥し、火災が発生しやすい季節になりました。火の取り扱いには十分に注意しましょう。



▲息のそろった演奏で防火を呼びかける園児たち

母から子へ 受け継がれる伝統

東城まちなみぶらり散歩ギャラリー・お通り **No.2**

10月29日から11月5日までの8日間、街道東城路（東城町市街地）で「東城まちなみぶらり散歩ギャラリー」が開催されました。街道沿い約600mが丸ごとギャラリーとなり、各家のお宝や手作り品などが並び、沿道では東城高校生徒によるボランティアガイド「東城応援隊」が、来訪者にマップを配り見どころを案内しました。

11月3日には、江戸時代から続く伝統行事「お通り」が東城小学校をメイン会場に開催されました。矢よけの武具を装飾した母衣をはじめ、大名、武者、華童子など、総勢約150人からなる行列が市街地を練り歩き、沿道は市内外のカメラ愛好家や見物客でにぎわいました。親子2代で母衣を背負った子どもは「母親と同じ経験ができてうれしい。この経験を後輩へ伝えたい」と満足そうな表情を浮かべていました。

1~4_お通り 5・6_東城まちなみぶらり散歩ギャラリー



5 笑顔で案内する東城応援隊員



6

「お通り」鉄砲隊と大砲隊の発砲の動画はこちらから見られます!



庄原いちばん
動画CMコンテスト
YouTubeチャンネル
<https://youtu.be/1JVRzhYni6Y>



火災予防に貢献

庄原市消防団高野方面隊防火パレード・11/6

No.12

秋の火災予防運動に合わせ、庄原市消防団高野方面隊防火パレードが開催されました。上高自治振興センターで行われた出発式では、副方面隊長の氏名呼称と笛の合図により整列した24人の消防団員が威勢良く返事をした後、12台の消防車両に駆け足で乗り込みました。その後、上高地区・下高地区に分かれ、火災予防を呼びかけながら町内をパレードしました。

堀江修治方面隊長は「多くの市民が見守る中で出発式を開催することにより、消防団員の士気が高まっていると思う。また、パレードをすることで各自治会の地理や水利を確認することもできるため、今後も続けていきたい」と話していました。



▲姿勢を正して整列する消防団員

除雪機械とふれあう

除雪機械ふれあい体験・11/11

No.11

中国横断自動車道尾道松江線の口和除雪基地で除雪機械ふれあい体験が開催され、聖慈園保育所園児と口南小学校児童の全41人が参加しました。

この事業は、国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所が主催し、普段身近で見ることの無い除雪機や警察パトカーとのふれあい体験を通して、道路の除雪作業に関心を持ってもらうことを目的としています。

子どもたちは、DVDを見るなどして、除雪機械や作業について学んだ後、除雪トラックや除雪ローダー、ロータリー除雪車、凍結防止剤散布車、警察パトカーに一人一人乗車し、楽しんでいました。



▲子どもたちは除雪機械に興味津々

金藤理絵選手の功績をたたえて

記念碑除幕式・11/13

No.8

金藤理絵選手（Jaked・山内町出身）がリオデジャネイロオリンピックで金メダルを獲得したことを記念し、山内自治振興区は金メダル記念碑を建立。その除幕式が「山内ふるさと祭」に併せて行われました。

記念碑は、山内自治振興区が地域の皆さんから寄付を募り、多くの地域の方や児童によく見えるようにと、山内小学校の校門の前に建てました。

式典の中で市川基矩区長は、「山内小学校へ登校する児童の皆さんや地域の方々がこの記念碑を見て、金藤さんの18年間の努力を思い浮かべ、今日も一日頑張ろうという気持ちになってもらえることを願っています」と話しました。



▲除幕された記念碑

庄原市と首都圏をつなぐ

ひろしま里山ウェブ拡大プロジェクト現地実習・10/21~23

No.7

地域貢献に意欲を持つ首都圏の若い世代が、体験や交流を通じて中山間地域の課題解決に向けたプランを作成する「ひろしま里山ウェブ拡大プロジェクト」の現地実習が市内で行われ、4人の実習生が参加しました。

実習生たちは庄原暮らしお試し体験施設「くちわの家」を拠点に、空き家の見学や市内で活動する人たちとの交流をはじめ、山内自治振興区で取り組むブランド米作りに使用する竹の切り出しや、「暮らし宿お古」でのまき割りのほか、くど（かまど）での料理づくりなどを体験しました。実習生たちは今回の現地実習や首都圏でのグループワークを経て、本市の課題解決に向けたプランを作成し、来年2月に発表する予定です。



▲竹の切り出し作業を体験する実習生たち

地域で男女共同参画を推進

総領自治振興区「第2回女性会議」・10/28

No.14

総領自治振興センターで総領自治振興区主催の「第2回女性会議」が開催され、23人が参加しました。女性会議は、女性を取り巻く課題について考えることや参加者相互の交流・情報交換を目的としています。

会議では、中国新聞の記者高橋清子さんが「女性の身近に起こっていること」と題した講演を行い、「男女共同参画社会実現には、女性の長時間労働の削減や、意思決定の場に女性を増やし多様な就労形態を支援する社会的な基盤を整備することが必要」と話しました。

講演後には「地域で女性が参画しやすい雰囲気や仕組みづくりが必要」「女性の声をもっと発信していきたい」などの活発な意見交換が行われました。



▲男女共同参画社会の実現に向けて話し合う

自らの手で化石を掘り出す

比和自然科学博物館公開講座・10/22

No.13

比和自然科学博物館の公開講座「化石の観察会」が開催され、市内から親子連れなど30人が参加しました。

参加者は、講師の指導を受けながら、事前に採取された石に“たがね”を当ててハンマーで叩き、岩石から化石を掘り出しました。さらに、掘り出した化石の種類や、化石が埋まっていた土地が当時はどういった環境であったのかなどを調べました。

講座終了後、参加者の中には「化石を教科書などでしか見たことがなかったが、実際に自分で掘り出すことができ、とても貴重な体験をした」と話している人もいました。



▲化石を掘り出す参加者

地域の活性化を目指して

西城自治振興区講演会・11/7

No.10

西城自治振興区が主催する講演会「幸せの国プータンから見たもの」が、西城自治振興センターで開催されました。平成23年7月からプータン王立大学天然資源学部の食品加工の講師として勤務後、現在は帰国して庄原実業高等学校の教諭をしている前田奈緒里さんが講演しました。

プータンは経済的な成長よりもGNH（国民総幸福量）を重視して国政を行う国です。前田さんは民族衣装をアレンジした衣装を着用し、現地で使用した物品などを見せながら、プータンでの経験を基に、地域活性化に必要な「幸福感」のあり方を講演しました。現地の様子が見える講演に、参加者は興味深く耳を傾けていました。



▲「幸福感」について話す前田奈緒里さん

ごみの減量化と資源の有効活用

庄原市リサイクルフェスタ・11/5

No.9

リサイクルプラザで「第12回庄原市リサイクルフェスタ」が開催され、300人を超える人が来場しました。

会場では、小・中学生が出展した環境ポスター・標語コンクールの表彰式が行われたほか、リサイクル品販売やペレットストーブの展示販売、使用済みの小型家電の回収など、環境に関わるイベントコーナーが多数設けられました。

そのほか、いらなくなったおもちゃを交換する「かえっこバザール」や、廃食油キャンドルづくりの体験コーナーなどもあり、大人から子どもまで多くの人々が楽しんでいました。



▲リサイクル品販売のコーナーにたくさんの人が集まった